

【報告者】 露木 みち子

【学年】 2 年 【教科・単元名など】 算数 かけ算 (1)

【実践内容】

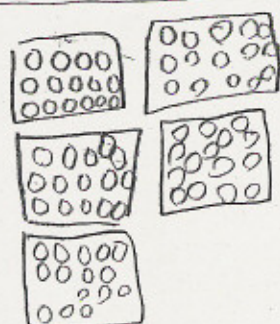
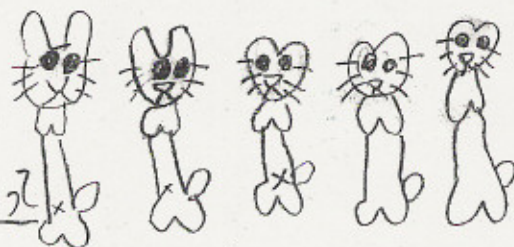
かけ算の場面を探し、かけ算の式になる問題をつくる。

- ・身の回りの生活の中からかけ算の場面を探して、かけ算の式になる問題文をつくる。
- ・友だちと問題を出し合う。
- ・ほかの児童がつくった問題をかけ算の式で表す。
- ・かけ算の式にならない問題を提示して、どういう問いかけにすればかけ算の式になるか話し合う。

① うさぎの耳はせいぶん いくつあるでしょう。

②

おはじきが11個に何個はいくつ入るでしょう。

(47)
32(47)
32しき $\times$ =しき $\times$ =

【反省】

かけ算は、「1つ分」が「いくつ」で全体の数を表す計算である。しかし、数量の関係を「1つ分」が「いくつ」をとらえる見方ができない児童もいた。そこで、教科書に出てくる場面や数量をまねして、問題文を作るようにさせた。それでも、かけ算の式にならない児童がいたので、どういう問題文に替えれば、かけ算の式になるかを話し合っていく中で気づかせていくようにさせた。また、一人の児童でも、興味のある「動物の耳は2つ」「虫の足は6つ」と、よく知っている数だとかけ算の式になる問題文になるが、箱の中におはじきがいくつ入っていて、それが何個あるかという児童があまりなじみのないものにはかけ算の問題文に誤りがあった。数量の関係を「1つ分」が「いくつ」ととらえる見方を徹底していくことが大切だと思う。